

「こぶしネット」がつなぐ在宅医療・介護・福祉

～急性期病院と地区医師会の協働から始まった在宅医療連携～

淀川キリスト教病院
東淀川区医師会
東淀川区役所

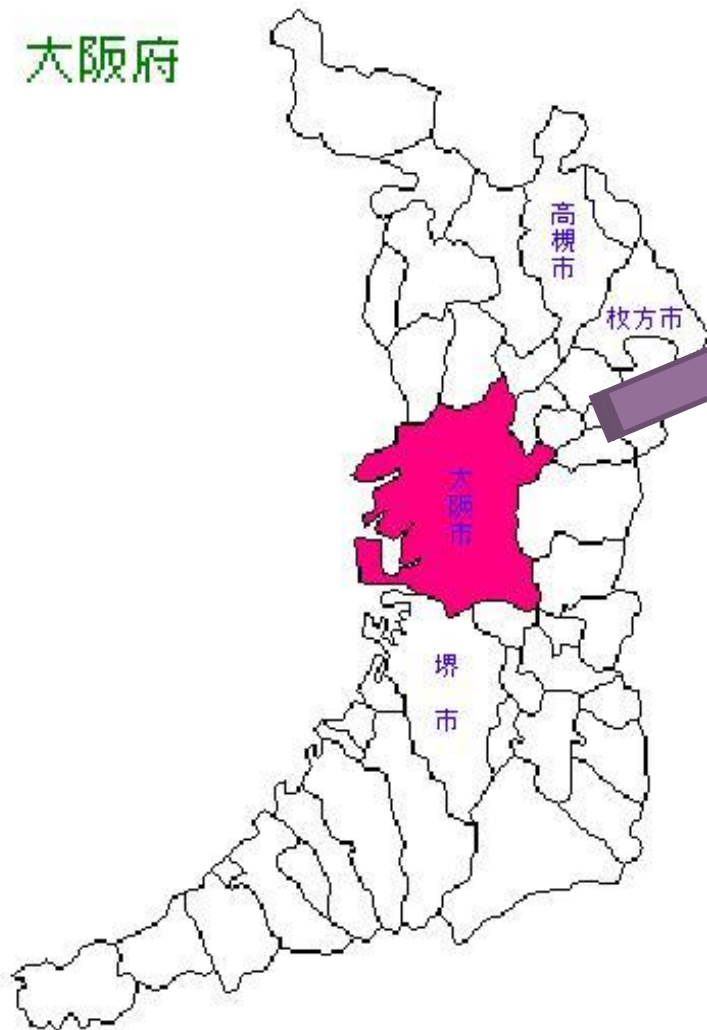
三輪恭子
辻正純
多田和代



大阪市東淀川区



大阪府



人口	176,585人
高齢者人口	35,775人 (20.3%)
高齢単独世帯	10,763世帯 (41.3%) (平成22年10月1日 国勢調査)
病床数	6病院 (1,208床) (平成23年10月1日 医療施設調査)

2008年以前

退院調整における課題



医療依存度の高い患者がスムーズに退院できない！

院内

- 在宅医療や地域連携についての知識不足
- 介護度が高いと、「在宅は無理」と判断し、転院をすすめる



患者・家族

- 当院がかかりつけ→在宅移行時に新たな診療所医師との関係づくりに戸惑う
- 独居・高齢世帯などの介護力不足



診療所

- 在宅療養支援診療所として機能している診療所が少ない
- 診診連携がない
- 機能に限界がある



在宅医療連携推進のプロセス

2009

- 淀川キリスト教病院と東淀川区医師会の意見交換会（5月）
- 登録医・医師会員への在宅医療に関するアンケート調査
- 「在宅ネットワーク」のテーマで研修会開催（7月）

2010

- 淀川キリスト教病院と東淀川区医師会との意見交換会（5月・6月）
- 「東淀川区の在宅医療連携を考える会」（年3回）の開始

2011

- メーリングリストでの在宅医募集の開始
- 在宅医療サポートチームの立ち上げ
- 衛生材料の提供システム

2012

- **在宅医療連携拠点事業の実施**
- 「東淀川区の在宅医療連携を考える会」を年4回に増やし、多職種参加へ
- ワーキンググループの活動開始

2013

- こぶしネットの立ち上げ・・・実行委員会を月1回開催

2014

- 実行委員会とコアメンバー会議を交互に開催（月1回ずつ）

平成24年度 在宅医療連携拠点事業

めざすのは
“心の通い合う”関係づくり

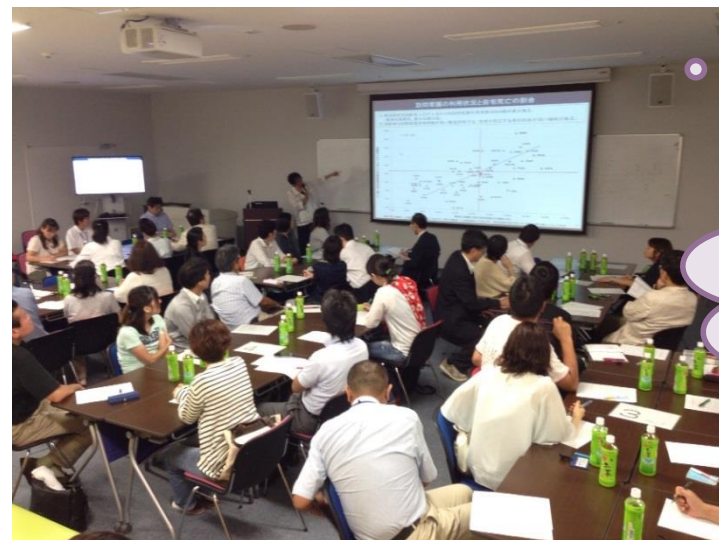
東淀川区の課題を抽出

- ①情報共有のシステムづくり
- ②在宅移行パスの作成
- ③地域住民への普及啓発
- ④社会資源マップの作成

みんなで
一緒に
考えよう！

ワーキンググループを作って、検討開始！

『こぶしネット』の立ち上げ



行政・医師会との
協働が不可欠！





東淀川区歯科医師会



東淀川区医師会



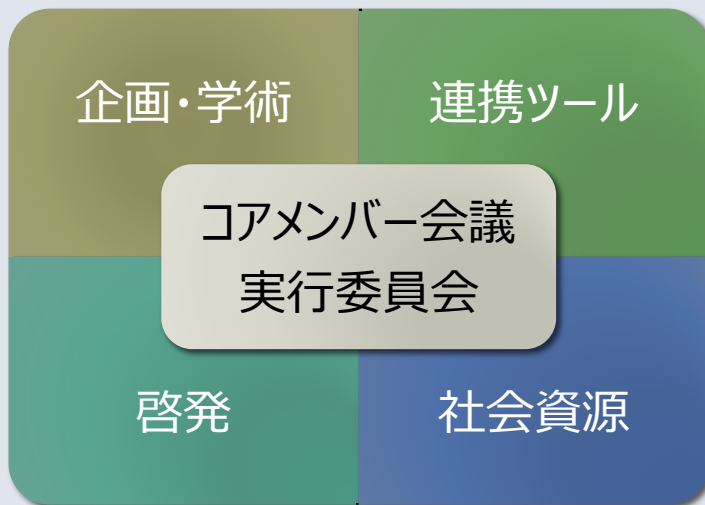
東淀川区役所



淀川キリスト教病院



東淀川区薬剤師会



訪問看護ステーション連絡会



住民代表
(民生委員・地域社会
福祉協議会)



居宅介護支援事業所



訪問介護・通所介護事業所



地域包括支援センター



老人施設

こばしネットの活動目的

- 地域での医療・介護・福祉の連携のあり方を考える
- 各職種における技量の向上、人材育成をめざす
- 地域における社会資源の発掘・活用に取り組む
- 地域住民に対して、在宅医療・介護に関する啓発を行う
- 在宅医療連携における課題を検討し、高齢者や障害者が住み慣れた地域で暮らすことができるようなまちづくりを区に提言する

ワーキンググループの活動内容

企画・学術

- 「在宅医療における多職種連携」に関するアンケート調査
- 「東淀川区の在宅医療連携を考える会」（年4回）の企画

連携ツール

- 心不全の日常生活チェックリストを作成
- 認知症患者のための情報共有ツールの作成

地域住民への普及啓発

- 区民向けの啓発講演会
- 在宅医療に関するパンフレット作成

社会資源マップの作成

- 各施設・事業所の情報を集約
- こぶしネットのHP作成と情報検索システム

今後の課題

- 住民、関係職種、病院スタッフへのこぶしネットの周知と相互理解の促進
- こぶしネット内の職種間の温度差
⇒目標・ビジョンを明確にして、「チーム」になる
- 住民を巻き込んでのまちづくりへの貢献

医師会の果たした役割

- 医療の機能分化の確認
かかりつけ医・病院・歯科医師会・薬剤師会・訪問看護
- 在宅医療への病診連携の推進
- かかりつけ医機能の推進
- 地域包括支援センターへの協力

かかりつけ医とは

何でも相談できる上、最新の医療情報を熟知して、必要なときには専門医、専門医療機関を紹介でき、身近で頼りになる地域医療、保健、福祉を担う総合的な能力を有する医師

医療的機能



社会的機能

地区医師会の役割

- 長期的ビジョン 継続的な事業計画
- 協働への意欲 会員への利益の還元
- コミュニケーション 内外への交渉力

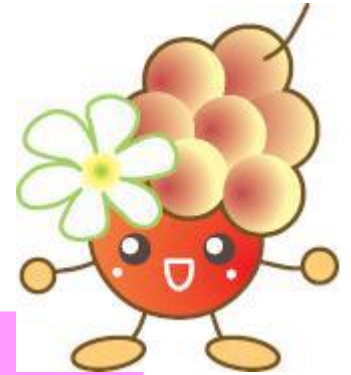
地区医師会のかぶしネットでの役割

- 多職種との協調
- 地域へのアウトリーチ
- かかりつけ医・病院への啓発
- 活動の支援

今後に向けて

- 在宅医療を行う医療機関を増やすための方策
病院との強力な連携
診療報酬上のメリット
- 「地域ネットワーク」継続のためのモチベーションの維持
人的資源・資金の調達
- 今後の展開に向けての「戦略」と「戦術」
「有志の集まり」か「公的なネットワーク」を目指すのか
「活動の自由度」と「統制」をどう考えるか

東淀川区将来ビジョン

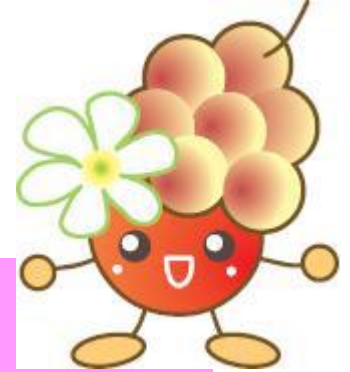


健康に生き生きと長生きできるまちづくり

区民が住み慣れた地域で生活することを支えるため、医療・介護等多職種連携により、地域における包括的かつ継続的な在宅医療が提供される地域をめざす

医療、介護等多職種連携による効率的で質の高い
24時間対応の在宅医療提供体制の構築

そのために・・・

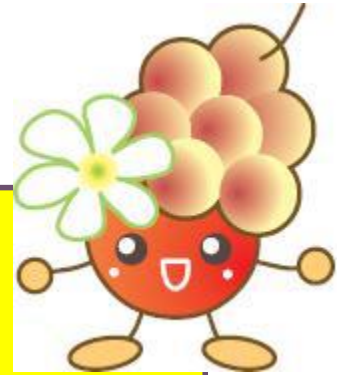


在宅医療連携推進にかかる区民啓発と
人材育成は 行政課題と認識し・・・



- * 「こぶしネット」への積極的な参画（共に学ぶ）
- * 「こぶしネット」と地域をつなぐ
（民生委員協議会・地域社会福祉協議会の参画）
- * 地域と連携した「在宅医療学習会」の開催（住民啓発）
- * 啓発用パンフレットの作成

在宅医療の学習会

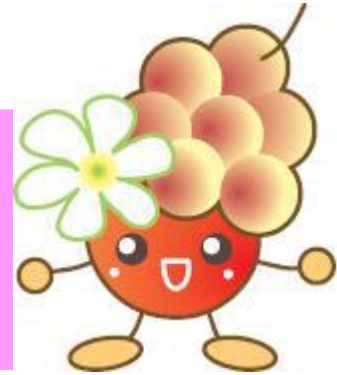


元気なうちから知っておこう！ 在宅医療・介護の活用術

- ①在宅医療ってなに？ 東淀川区医師会
- ②病院との連携で急変時も安心！
淀川キリスト教病院
- ③こんなときは訪問看護！
訪問看護ステーション
- ④介護保険の上手な使い方・地域の社会資源
地域包括支援センター

学習会の実施状況

平成25～26年度に8地域で9回開催
480名の住民が参加



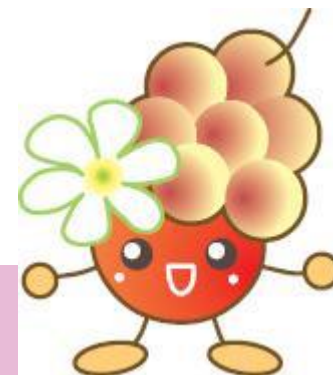
《アンケート結果》

- * 在宅医療への興味が高まった人 ……71.1%
- * 在宅医療を利用したいと思う気持ちが高まった人 ……84.6%

《自由記載》

- * 在宅医療を安心して任せられる医師を見つけるのが難しい。
- * 在宅医療を受けるには、どこに申し込めば良いのか？
- * 費用が心配、ある程度安くできるのなら考えてみたい。
- * 一人暮らし・老老介護で在宅医療を利用できるか？
- * 部屋がせまいので、どこまでみてもらえるか。 など

今後にむけて①



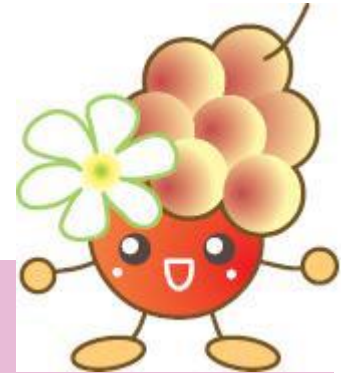
① 区民啓発の強化

- * 患者・家族の在宅医療の理解促進と選択
- * 患者・家族を取り巻く地域住民の理解促進

② 東淀川区地域包括ケアシステムの構築

- * 「地域包括ケアシステム推進連絡会」の設置
- * 日常生活圏域でのネットワークづくり
 - ・在宅医療・介護連携にかかる多職種連携部会(こぶしネット)
 - ・要援護者支援のための地域連携部会

今後にむけて②



③ 要援護者支援の強化

* 孤立死を防ぐためのシステム（H25～）の強化

- ・民生委員へ要援護者情報の提供、日常の見守り及び災害時の支援
- ・区内事業者（生協・ヤクルト・住宅供給公社）との協定による連携システム
- ・救急カプセル

* 東淀川区ライフステーション事業（H27）

- ・例 見守りキーホルダー・カギ預かり・まちの保健室・ボランティア派遣など